

# 令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢中央高等学校昼間制

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判定基準	評価	データ	分析と評価
1 生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものとするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。	<p>○教職員が、1人1台の端末を有効に活用した指導を行い、生徒個々の興味・関心を高めて、学力向上を図る。</p> <p>○教職員が、学習習慣を定着させる指導及び、授業の出席を促す指導を徹底し、生徒の授業に取り組む意識を向上させる。</p>	<p>○生徒用端末を授業で活用したところのある教職員数が前年比で</p> <p>A 120%以上である。 B 110%以上120%未満である。 C 100%以上110%未満である。 D 100%未満である。</p> <p>○授業出席を促す指導の対象生徒数が</p> <p>A 10名以下である。 B 11名以上25名以下である。 C 26名以上35名以下である。 D 36名以上である。</p>	A	586% 前年度7名 に対し 前期17 後期24 13名	<p>生徒用端末を授業で活用したところのある教員数は、整調に増加している。また、GIGA研修を通して、その質も向上しているが、今後も底上げが進むよう研修等を工夫したい。</p> <p>今年度は、特に1年生での指導対象者が1名と少なく(昨年度は7名)、授業未定着行為自体も少ないことから、入学当初の初期指導の重要性が改めて感じられた。引き続き授業への出席、ルールの遵守等の指導を継続したい。</p>
学校関係者評価委員会の詳細		<p>・知識伝達型の指導からアクティブラーニング等への移行は多くの学校が苦勞しているところなので、より良い研修の企画、実行が必要だと思う。</p> <p>・学校の現状に鑑み、生徒用端末の活用が進んでおり、授業評価の結果も前期よりも良くなっていることは素晴らしいと思う。教育の成果があがるように、個々に応じた様々な努力がされていると感じる。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>・今後も多様な生徒に対して、信頼関係を築きながら、「個」を大切に指導を継続的に行っていきたい。</p> <p>・校内研修の内容が端末の操作やアプリの使用等に偏ったものとならないよう、ユニバーサルデザインやアクティブラーニング等に関するものも行うようにしたい。</p>			
2 卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み、生徒の希望進路を実現する。	<p>○卒業生全員の進路実現のため、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「LH」等の授業の中で、コミュニケーション能力、思考力・判断力の育成を図る。</p> <p>○生徒が、進路の目標をできるだけ早い時期に設定できるようにキャリア教育を進め、望ましい職業観と社会性の育成を図る。</p> <p>○年度末に卒業予定の生徒が、遅くとも6月には進路目標を持てるように指導する。また、6月に進路目標を持てなかった生徒には継続的に指導する。</p>	<p>○年度末における全卒業生の進路内定率が</p> <p>A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。</p> <p>○年度末に卒業予定の生徒で、進路目標を持つものの割合が</p> <p>A 90%以上である。 B 75%以上90%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。</p>	B	94% 進学 35/38 就職 21/21	<p>進学未決定者3名は、次年度に再チャレンジする。国立大学合格を含め、それぞれに努力した姿が見られた。就職においても希望者全員が内定した。ただ、卒業の目処が立たずに出願が遅れるなど検討課題は多く、早い段階での意識付けは今後も必要である。</p> <p>未定の生徒には、卒業のみや自宅療養など、本校独自の状況を持つ生徒がいる。進学や就職といった希望を持っていても、なかなか行動に移すことができない様子が見られる。自己の特性を知り、それぞれが納得のいく進路先を見つけていくには時間を要するが、担任、保護者との連携をとりながら、今後も指導にあたる必要がある。</p>
学校関係者評価委員会の詳細		<p>・多様な生徒の実態に合わせたキャリア教育が行われている。本校の就職希望者の未決定者が次年度も0名となるよう、今後も先生方の尽力に期待したい。</p> <p>・このご時世では、将来に対する漠然とした不安感があり、自己のあるべき姿を探しにくい。生徒たちに社会生活への興味と希望を持てる指導をお願いしたい。</p> <p>・「キャリア教育」という語になじみがない保護者、生徒もいると考えられるので、発信の方法については何か工夫があっても良いのではないかと。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>・キャリア教育に対して、7月実施の「定通企業ガイダンス」等と関連付けて、自己の経験を深く掘り下げて考えさせるなどの工夫を行うとともに、ホームページ等を活用して生徒、保護者等への発信に努めたい。</p>			
3 規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	<p>○教職員は、広報活動をより充実させ、保護者や地域に開かれた学校づくりを推進する。これにより、保護者に学校の様子を把握してもらう。</p> <p>○教職員は、「どの生徒も、いじめの被害者にも加害者にもなりうる」という基本認識を十分にふまえた指導を行う。本校の「いじめ防止基本方針」に基づく取組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。</p> <p>○健康診断や個別の指導を通じて、生徒の歯・口の健康づくりに重点的に取り組む。</p> <p>○効果的な支援を実践するために、学年会、養護教諭、外部機関等との連携による組織的支援体制を整備し、対象生徒を適時に支援する。</p>	<p>○学年別保護者説明会、保護者懇談会に1回は参加した保護者の割合が</p> <p>A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 65%以上75%未満である。 D 65%未満である。</p> <p>○いじめの発生件数が</p> <p>A 重大事案が0件かつ認知件数が0件である。 B 重大事案が0件かつ認知件数が5件以下である。 C 重大事案が0件かつ認知件数が6件以上10件以下である。 D 重大事案が1件以上または認知件数が11件以上である。</p> <p>○歯科検診後に受診勧告された生徒のうち、受診した生徒が</p> <p>A 40%以上である。 B 30%以上40%未満である。 C 20%以上30%未満である。 D 20%未満である。</p> <p>○個別の教育支援計画について、生徒に合った具体的な目標を立てることができると自己評価した教職員の割合が、</p> <p>A 50%以上である。 B 40%以上50%未満である。 C 30%以上40%未満である。 D 30%未満である。</p>	B	76% (生徒350名中) 1年 95 2年 67 3年 74 4年 30 合計266	<p>コロナ禍のため、過去2年間は保護者が校内に入る機会がほとんどなかった。この影響もあり、今年度の保護者会には過去に比べて大変多くの参加があった。また、担任との積極的な面談も行われた。今後の情報発信の仕方やその内容を工夫改善することで、さらに保護者の学校への関心を高め、家庭と連携した生徒指導をすすめることができると考えている。</p> <p>アンケートによるいじめの認知件数は0件であるが、本人からの相談によりいじめを1件認知した。いじめにつながるような小さな事案も散見されており、今後も生徒がSOSを出しやすい環境づくりとともに、担任、各課、外部機関等と連携しながら、生徒たちを見守っていく。</p> <p>1月末現在で、受診報告があったのは46名であった。受診勧告書を2度配付したが、なかなか受診率の向上につながらなかった。今後も粘り強く受診勧告を続けるとともに、受診に至らない理由について、勧告者に聞き取り調査等を行い、分析したい。</p> <p>個別の教育支援計画作成会や情報交換会を通し、生徒ひとり一人について考える機会を設けられたことで、具体的な目標を立てることができると認識した教員が増えたと考えられる。</p>
学校関係者評価委員会の詳細		<p>・いじめに関する小さな事案を積極的に認知しようとしている学校側の取組は評価できる。</p> <p>・コロナ禍で、保護者等への発信を行う機会が少なくなったことで、学校側のご苦勞も多かったと思う。しかしながら、生徒たちの日常の授業等の様子を見ることなしに、学校側の取組の評価をすることは難しい。</p> <p>・歯科治療の受診者数が少ないのは、大変残念である。保護者側の協力なしで、受診数は増えないと考えるため、新たな工夫を考えてほしい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>・警察機関等とも連携することで、いじめ事案については、速やかかつ適切な対応を徹底したい。</p> <p>・保護者会等とも連携することで、学校の取組についてできる限り広報したり、参加を求めたりしていきたい。</p> <p>・広報紙や集会等を通して、健康推進につながる情報をできる限り発信していきたい。</p>			

4	<p>スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等とおして自主・自律・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。</p>	<p>○部活動の一斉活動日を通じて、生徒に活動内容を具体的に伝え、積極的な参加を呼びかける。</p> <p>○教職員が生徒に、生徒会活動や学校行事等について、分かりやすく説明し、興味・関心を持たせ、主体的な参加を促す。</p>	<p>○部活動に加入している生徒の割合が A 45%以上である。 B 35%以上45%未満である。 C 30%以上35%未満である。 D 30%未満である。</p> <p>○生徒会活動・学校行事に対する生徒の満足度が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。</p>	B	<p>38.8% 運動部83名 男子49名、女子34名 文化部37名 男子18名、女子19名</p>	<p>部活動に加入している生徒の割合は前期31.1%(109名)であったが、38.8%(120名)と増加がみられた。昨年度は32.2%(97名)であった。</p> <p>教職員アンケート調査の「生徒会行事に積極的に取り組ませている」は、前期83%、後期95%となり、先生方の指導のたまものである。3年振りに様々な学校行事を対面で実施する事が出来た。</p>
<p>学校関係者評価委員会の詳細</p>		<p>・コロナ禍での部活動や行事の実施は、大変な苦労があっただろうと推察する。そのような中でも、生徒の満足度を高める活動をし、大会やコンクールで成果を残していると評価できる。</p> <p>・ボランティア活動にも取り組ませているのは良い。</p> <p>・同好会的なサークル活動（例えば、漫画・ダンス・外国語・カードゲームなど）も幅広く認めていくのも良いと思う。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・今後も部活動や生徒会活動を通して、生徒の学校生活への満足感や自己肯定感等を高めていきたい。</p>				
5	<p>発達障害による困難さを抱える生徒を対象に、通級指導などによる自立活動を通して、自尊感情を高めるとともに、障害の改善または克服を目指す。</p>	<p>○通級指導を担当する教職員や外部講師等から自立活動の指導法や支援について学ぶ。これを生かし、発達障害のある生徒が学習上・生活上の困難さを改善克服できるよう取り組む。</p>	<p>○発達障害のある生徒への具体的な支援の場面をもつことができたとする教職員の割合が A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 60%以上75%未満である。 D 60%未満である。</p>	A	<p>86.1% できた 33.3% まあまあできた 52.8%</p>	<p>「まあまあできた」も含めた肯定的な回答は低下したが、「できた」とする回答は倍近くに増加した。支援できた場面が増えた一方、同じ診断名でも、当事者の困り感は一人ひとり異なるため、肯定的に思えなかったと判断した割合が増えたと考ええる。</p>
<p>学校関係者評価委員会の詳細</p>		<p>・発達障害は一人一人の困り感が異なるので、個々の見極めやその生徒にあった声掛けなどが難しい。本校では、個々に応じた様々な配慮が行われていると思う。</p> <p>・小中学時に不登校ぎみであった子供たちの多くが、本校で精神的に成長し卒業しているが、そのノウハウには大変興味がある。この部分が本校の強みであると思うので、今後も大切にしていってほしい。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・今後も多様な生徒に対して、信頼関係を築きながら、「個」を大切にした指導を継続的に行っていきたい。</p>				
6	<p>効率的かつ効果的な業務遂行のため、組織的な業務改善に努める。</p>	<p>○教材を共有したり、ICT機器を用いたりするなどして、業務改善を推進する。 ○定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方を浸透させる。職場環境の改善を行う。</p>	<p>○ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をすることができたとする教職員が、 A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。</p>	A	<p>83.3% できた 15名 まあまあできた 15名</p>	<p>今年度、初めて設定した評価項目であるが、肯定的な評価をした教員は80%を超えている。今後も、全教職員が一丸となり、ICT機器等を用いた業務改善に努めたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の詳細</p>		<p>・概ね妥当な評価である。肯定的に受け取っている教員が十分にいると感じた。教師側の姿勢は、生徒側にも必ず反映されていくと思う。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・今後も教職員の業務改善やライフワークバランスの意識向上が高まるよう、職場内での声かけや校内研修を工夫していきたい。</p>				